テーマ：アイヌの人たちの歴史・文化等（実践校）

渡島管内　北斗市立石別小学校

■本実践のポイント（概要）

・ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、生活科や総合的な学習の時間などにおいて、アイヌ教育相談員やアイヌ文化活動アドバイザーを外部講師として招聘した講話や体験的な活動などを通して、アイヌの人たちの歴史・文化等について探究的に学習しました。

■ふるさと教育・観光教育の実践内容

①単元の目標

アイヌの人たちの歴史や文化等を北海道及び北斗市の歴史や文化等と関連付け、調べたり体験したりする活動を通して、アイヌの人たちが受け継いできた伝統や思い、生き方を考えるとともに、アイヌの人たちの歴史・文化等を理解し、自分たちの住んでいる地域に関心をもって発言できるようにする。

②取組の様子

(1) 課題の設定

「北海道ふるさと教育指導プログラム」を活用するとともに、インターネットなどによる調べ学習を通して、「アイヌの人たちの歴史・文化等について調べて発表しよう」という探究課題を設定しました。

【外部講師の講話】

(2) 情報の収集

アイヌ教育相談員とアイヌ文化活動アドバイザーを外部講師として招聘し、アイヌ文様の作成やアイヌ舞踊の体験から学ぶ活動を通して、アイヌの人たちが受け継いできた伝統や思い、生き方について情報を収集しました。

【アイヌ舞踊の披露】

(3) 整理・分析

１人１台端末を活用し、学んだことを整理したり、レポートを作成したりするとともに、児童同士で交流・協議することにより、アイヌの人たちの歴史や文化等と北海道及び北斗市の歴史や文化等との関連について理解を深めました。

(4) まとめ・表現

学習の成果として、文化祭でアイヌ語の歌やムックリの演奏を発表しました。アイヌの人たちの歴史や文化等について理解を深めるとともに、自分たちの住んでいる地域への思いを高めるがことができました。

③「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

・アイヌの人たちが受け継いできた思いを表現することができるよう、アイヌ語の歌やムックリの演奏に関する映像を手本にしたり、練習の様子を動画で記録したりするなど、１人１台端末を効果的に活用しました。
・児童同士の交流・協議において、児童の考えを深めることができるよう、１人１台端末の共同編集機能などを活用しました。

■実践の振り返り

・生活科や総合的な学習の時間などにおいて、「北海道ふるさと教育指導プログラム」を活用し、探究的な学習を進めたことにより、児童アンケートで、「アイヌの人たちの歴史や文化等についてもっと調べたいと思う」と回答した児童の割合が 67%から 90%に増加するなど、自分たちの住んでいる地域や文化に対する興味や関心が高まるとともに、郷土に対する愛着や誇りを育むことができました。
・年間を通してふるさと教育を実践するとともに、アイヌの人たちの歴史や文化等について系統的に学ぶことができるよう各学年の年間指導計画を整えることにより、自分たちの住んでいる町の歴史や文化、自然への興味関心を一層高められることが期待できます。